

— 県世界遺産センター —

曼荼羅絵図と写真展

1月には「もちつき大会」も
6日は「もちつき大会」も

和歌山県世界遺産センター（田辺市本宮行政局内）で29日から、絵画と写真展「新春を寿（ことほ）ぐ熊野讀歌」が開催されている。2007年熊野曼荼羅絵図コンテスト優秀賞受賞作品を展示。来年1月28日まで開く。また同センターで1月6

日午後1時から、新春もちつき大会を行う。いずれも無料。

曼荼羅絵図の作者は、新宮市出身のグラフィックデザイナー・寺村正幸氏（東京在住）。写真協力は寺村氏の友人の上野陽一郎氏で、お灯祭りや熊野川の川舟下り、また大賀

ハスやスイセン、レンゲ、溪流など9点を寄せている。

絵図は縦1メートル、横80

センチメートルの大きさ。寺村氏は「人々をあらゆる苦悩から救ってくれるという観音さまからの天の水をいただ

き、山々の石清水を流れて地水となり、那智の大滝や熊野川となり、黒潮にそそがれる。



曼荼羅絵図・写真展

そんな自然と信仰の世界遺産『熊野古道』を熊野三山を中心に、高野山、遠く京都、奈良、伊勢路も含め曼荼羅風に描きました」とメッセージ。

もちつき大会は、昔ながらのきねと臼（うす）でつく。午後2時まで行う。同センターでは、「お正月気分を味わいに、ご家族そろってお越しください」と呼び掛けている。問い合わせは同センター（電話07355④1044）へ。